

令和8年1月20日（火）開催

## 第4回松本市立特別支援学校設立準備委員会 会議録

報告1 特別支援学校増築棟建設及び源池小学校長寿命化改良工事設計プロポーザルの結果について  
現状報告のみ

報告2 インクルーシブ教育環境の構築を目指して

- ・各地で小中学校と特別支援学校の複合的な学校が作られ、活用されていることへの驚きと、自然なで温かい雰囲気を育む設計が作られていることを学んだ。
- ・話にはなかった重度重複障がい児童生徒の活動についても知りたい。
- ・「スペースの構造化」というキーワードについて、学ぶ環境と教育課程の編成が深く関わり合うことだと感じた。例えば、家具や衝立の配置など、施設整備を自由に柔軟に発想できることは、教員としてもワクワクすることである。

報告3 対象児童生徒について

- ・教育環境の変化が激しいという点について、小学校から中学校への学びの場を変更することで、変化に敏感な子どもたちは通えなくなることがあると聞いている。
- ・学校を変えることや副学籍交流を活用して地域校で学ぶことについて、保護者の負担が大きいことから、児童生徒の情報を特別支援学校の先生が地域校に伝えるなど、学校間の情報共有を密に行って欲しい。

(事務局)

移行支援シート、個別の指導計画及び教育支援計画等の共有を学校間で行っており、市立特別支援学校でも情報共有を密に行いたい。

- ・副学籍交流は、変化に耐えられる、変化を受け入れられるという学びにもつながるのではないかな。
- ・インクルーシブセンターの関与も大事になる。
- ・県で副学籍コーディネーターを配置し、県内全市町村で副学籍交流が行われており、変化に対する保護者の不安が軽減できるよう、県市で協力して検討したい。

#### 報告4 寿台支援学校分教室の開設について

- ・交流の場面について、休み時間や給食、清掃が示されているが、交流が行いやすい反面、特別支援学校の児童生徒にとっては日々積み上げられる大切な生活場面でもある。ただ一緒に給食を食べれば良いという印象にならないようにして欲しい。

(寿台養護学校)

例示は、日常的なふれあいの場面を作り出そうということ。共同学習なども含めて、目標・目的をもって進めていきたい。

- ・来年度の新入学児童から対象になる。保護者が手続きに不安を感じないよう、説明を十分に行って欲しい。市の教育支援委員会での判断で入学できなかったということがないように進めて欲しい。

#### 協議1 学校運営の検討と今後の進め方について

##### ○学校での具体的な検討について

- ・作業部会的な組織で、校務分掌や教育課程等について、検討する段階になってきたと認識している。
- ・なぜ、何のために、松本市が特別支援学校を作るのかという考え方の基礎を大事にすべき。理想を掲げて、すぐには実現できないと思うので、最初の一步を踏み出すために、児童生徒の状況に応じてできることを現場で考えていくことが重要である。
- ・教育課程の編成の問題だと思う。学習指導要領から指導内容を抽出して、アセスメントをして、さらにどういうものが必要なのかということを考える。この検討の中で、丸一日過ごすことや継続的に行うことなどを考えていってはどうか。この定型がないフレキシブルな取組みを、現場の先生や保護者、児童生徒が、楽しみながら進めて欲しい。
- ・隣接する学びの場を大切にしたいと思う。特別支援学校ができたとき、特別支援学級の児童や先生はとても大切になると思う。特別支援学校の児童と小学校の特別支援学級の児童の交流が、通常学級の児童との交流の糸口になる可能性がある。

##### ○インクルーシブセンターや特別支援学校の教育相談について

- ・市立特別支援学校の教育相談の位置づけを明確してはどうか。教育相談やインクルーシブセンターの役割の明確化や県立特別支援学校の関わりを事務局

で整理して欲しい。

#### ○準備委員会での議論について

- ・フラッグシップ校を目指すのであれば、同じ敷地にはない特別支援学校と小中学校が交流するとしたらどんなことができるかというモデルを示すところから議論すべきではないか。
- ・一定時間の交流だけでなく、例えば、特別支援学校の児童が、小学校に来て、1時間目から丸一日過ごすとしたら、どのように過ごせば良いのかという議論から行っても良いと思う。または、小学校の児童が特別支援学校に来て学ぶということがあっても良い。一つの校舎の中で、そういうことを検討しても良いのではないか。
- ・イギリスの自閉症に関する事例では、フランスの地理の授業を一緒に受けるという交流の授業の際、歴史を勉強する子の中で、フランス国旗の色塗りをすると聞いた。みんな同じフランスの勉強をしているが、学力や興味に合わせた授業が行われており、インクルーシブ教育の一つであると感じた。インクルーシブ教育の一番の意義は、様々な子がいて、様々な学び方や過ごし方があるということを全ての子が理解することだと思う。
- ・学校の枠組みを作るのではなく、既存の枠組みを外すことや緩めることも準備委員会で考えて欲しい。
- ・委員会では大きな理念や方向性を考えていきたい。

#### 協議2 中学部設置に向けて

- ・中学部から市立特別支援学校に進学する生徒もいると思うので、中学部では定員を超えた入学も考え、ゆとりある施設が必要。
- ・作業学習に専用で使える部屋が必要ではないか。
- ・県立特別支援学校の状況から定員は6名が適当である。
- ・年齢的なことを考えると、更衣室も必要ではないか。
- ・特別支援学校では、教材が廊下にあふれていることが多い。広い教材室が必要ではないか。
- ・施設整備については、学校とも相談して進めて欲しい。